

研究主題：身近な地理情報を生かした作業的・体験的な授業実践

- 日常生活に生きる地理の授業をめざして -

〇〇〇〇高等学校 〇〇 〇〇 (地理)

1 はじめに

本校は昭和34年に創立され、平成20年に創立50周年を迎えた。普通科7学級、理数科1学級の1学年8学級で全校で24学級である。平成16年度から2学期制を実施している。平成20年4月からは新校舎が完成し、現在は恵まれた環境で教育活動を行っている。また、本校は平成14年度から18年度に文部科学省より、「スーパーサイエンスハイスクール」の指定を受け、その成果を生かし、特色ある理数科教育を実施している。さらに、平成19年度から、進学重視型の単位制高校として、1日45分の7時間授業、多様な学校設定科目の設置など、特色ある教育活動を行っている。単位制ということで、特色のある教育課程になっている。2,3年次の選択は、他教科との抱き合わせの

本校の教育課程(地理歴史・公民)

なかでの選択である。また、学校設定科目が多く設けられ、生徒の進路に対応できるようになっている。生徒の大部分は大学進学を目指しており、授業態度は真面目で熱心である。

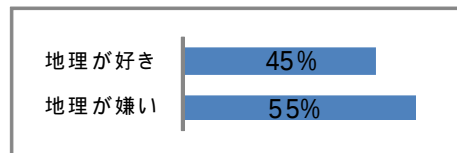
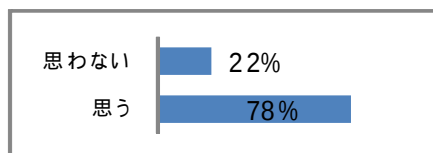
1年次	地理A(2)・現代社会(2)
2年次	世界史A(2)・日本史A(2) 地理研究(2)・現代社会研究(2)
3年次	世界史B(4)・日本史B(4)・地理B(4) 世界史研究(2)・日本史研究(2)・地理研究(2) 倫理(3)・政治経済(3) 倫理研究(2)・政治経済研究(2)

()は単位数 は必修科目 は学校設定科目

2 主題設定の理由

学習指導要領によると地理Aの目標は、「現代世界の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う」と示されている。この目標を達成するため、内容は「(1)現代世界の特色と地理的技能」、「(2)地域性を踏まえてとらえる現代世界の課題」の大項目で構成されている。学習指導要領解説では、「(1)現代世界の特色と地理的技能」の指導にあたっては、「現代世界の地域性や動向を作業的、体験的な学習を通してとらえさせる」と示されていることから、特に作業的、体験的な学習を確実に取り入れるよう工夫する必要がある。「単に現代世界の地理的事象について教師が説明し、生徒がそれを聞いて理解し、知識化するといった学習では、その時点での現代世界に関する地理的知識は身に付いても、現代世界の地域性や動向を生徒自らがとらえる力や態度を育成するには十分でない」と書かれてある。

ところが、実際の地理の授業では教師が一方向的に地理的事象等を説明し、生徒は受け身になり知識を覚える場面が多いように思われる。平成21年度の1年生の地理Aの最初の時間に 地理は暗記科目と思うか。 地理は好きか、嫌いか、とその理由 についてアンケートをとってみたところ、結果は次のようになった。地理が嫌いと答えた生徒の約67%が嫌いな理由として、暗記



するのが嫌だからと回答していた。一方、地理が好きと答えた

生徒は、外国のこと（自然や人々の暮らしなど）を調べたり、日本との違いを見付けたりすることが楽しいという理由が多かった。

そのため、地理嫌いの生徒にも親しみやすい、身近で興味ある題材を用いて作業的・体験的学習ができないかと考えた。身近で興味ある題材を地理情報としてとらえ調べることで、今までは思いもよらないことがわかったり、調べたことから他の地理的事象が関連してくるなど、地理を学習することで得る充実感を知ってもらいたいと思った。

また、こうした作業的・体験的学習を通じ地理的技能・地理的考察力を身につけてもらうことで、激しく変化する現代世界に関心をもち続け、生涯にわたって学び続ける生徒を育てることにつながると思い主題を設定した。

3 研究方法

学習指導要領解説の地理 A では、「生徒自ら地理的な作業や体験ができるよう学習の内容や方法を工夫し、現代世界の地理的認識とともに地理的技能を身に付けることができるようにする必要がある。」と書かれている。また、新学習指導要領の地理 A では、歴史的背景を踏まえての学習、日常生活との結びつき（地理 A）、課題探究学習の充実などが重視されている。

そこで本研究では、できるだけ生徒に身近で興味ある題材を効果的に用いて、生徒が主体的に地理的な作業や体験ができることを重視して、工夫していきたい。具体的には次のような授業実践を考えてみた。

実践 1 地域調査による体験的学習（地域の歴史を踏まえて学習する。）

学校周辺の新旧の地形図を使い、地域の変化を考え、地理的思考力を養う。地形図の読み取りから地理的技能を身につけさせる。その際、地理情報システム（以下GISと表記）を利用し、生徒により興味深く授業展開をする。また、地域調査では歴史的背景も同時に考えさせる。

実践 2 ワークシートによる調べ学習（調べた地理情報から、作図する学習）

身近な題材（食べ物）から、ワークシートにより様々な地理情報を調べ出し、地理的資料を収集する能力、その資料を分析したり、応用する能力を身につけさせる。

また、調べた地理的情報を使い地図をつくる作図能力を身につけさせる。

実践 3 グループによる発表学習（世界の生活・文化の多様性を学習し、発表する力をつける。）

生徒を5～6名のグループに分け、グループごとに国を選び、その国の食べ物について調べ学習を行う。実践2のワークシートによる調べ学習を発展させ、地理的資料を収集する能力、資料を分析し地理的考察をする能力、調べたことをグループでまとめる力を育成する。

発表の際に、地図、写真、図、統計資料、新聞資料などを効果的に活用させることにより地理的技能の定着と応用をはかる。同時に、他者に対して自らの考えをまとめ、それを説得力のある情報として提示する「プレゼンテーション能力」の育成、言語能力の育成にも取り組む。また、生徒には互いの発表を相互評価させる。これらにより、地理的な認識や地理的な見方、考え方、情報を主体的に活用できる能力の育成に取り組む。

実践 4 グループ協議（グローバルな視点を育て、言語活動の充実を図る。）

この学習では、地理 A の学習指導要領の目標にある「現代世界の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察する」「国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う」ことをねらいとする。また、生徒が物事を地理的に考察し自分の考えを発表する力や、協議することで言語活動を充実させることをねらいとしたい。

4 年間指導計画への位置づけ

学期	月	学 習 内 容	授業実践
前 期	4月	1部 つながりを深める世界	実践 1
	5月	1章 球面上の世界 2章 結びつきを強める現代世界 ・身近な地域の調査	
	6月	2部 世界の多様性の理解のために	
	7月	1章 生活に影響を及ぼす気候	実践 2
	9月	2章 生活に影響を及ぼす地形 3章 多様な生活をもたらす社会環境	
後 期	10月	4章 多様な諸地域の生活、文化	実践 3
	11月	アメリカ合衆国、東南アジア、EU諸国	
	12月	・近隣諸国の生活文化	
	1月	3部 地球規模で広がる課題	実践 4
	2月	1章 地球規模で広がる課題	
	3月	人口問題、都市問題、食料問題、等 2章 近隣諸国と日本が取り組む課題	

5 研究内容

実践 1 市立千葉開校当時の小仲台・稲毛周辺を調べてみよう。

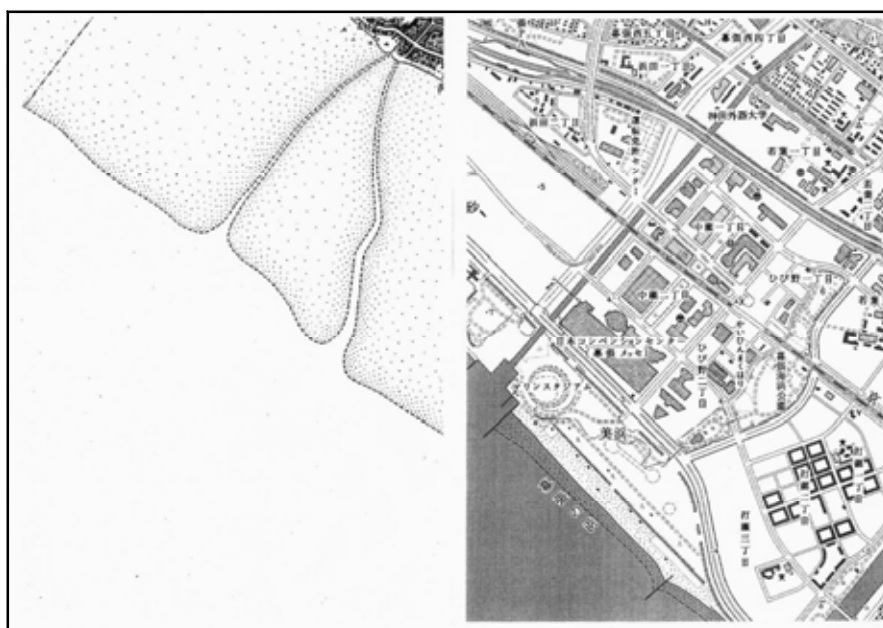
(1) 学習活動の概要

(ア) 千葉西部の昭和31年と現在の2万5千分の1の地形図を比較する。

開校当時の学校の周辺はどうなっていたのかというテーマで、地形図の読図(地理的技能)の習得や地理的思考力の養成を目指す。また、学校周辺の土地利用図を作成し、新旧の地域の変化を学習させる。

生徒に身近な地域の地形図を使い、地形図が苦手な生徒にも興味深く、地理的な作業や体験ができるよう学習の内容や方法を工夫し、地理的技能を身に付けることができるようにする。具体的には、昭和34年創立当時の学校の様子を写真中心のパワーポイントで説明する。GISを用い、新旧の地形図を並べ、大画面に写す。地形図の学校周辺を拡大したり、土地利用図を示したりして、分かり易く説明し、授業を展開する。その後、土地利用図を作成させ、地域の変化を考えさせる。

また、本校の卒業生の椎名誠氏のエッセイ集「ナマコもいつか月を見る」で椎名氏の青春の思い出の幕張の海岸が大きく変化したと書かれた文を題材として、「幕張・稲毛の現在のどこまでが海だったのか」という生徒の興味のあることをGISを使い調査する。それにより、学校周辺だけでなく、千葉市の新旧の地域の変化を学習させる。



昭和31年と平成16年の 幕張の海岸線の地形図

(GISを使った新旧の地形図の比較)



昭和 31 年・千葉西部（学校周辺）



平成 16 年・千葉西部（学校周辺）

GISを利用した授業展開

	時間	指導内容	学習活動	指導上の留意点
導入	7分	千葉市の60年前 幕張の海岸線 (椎名誠氏のエッセイより)	新旧の幕張についてエッセイを読ませ、筆者が誰か考えさせる。 GISにより昭和31年と平成16年の地形図を、スクリーンに並べて映し、比較する。	本校のOBの椎名氏の作品を用い、生徒の興味を引き出す。 GISで地形図を拡大したり、新旧の地形図を重ねたりしながら、海岸線の変化を確認させる。
展開	33分	学校の60年前 開校当時の市立千葉高校 土地利用図の作成 市立千葉高校の開校 当時の歴史	GISにより、昭和31年と平成16年の地形図をスクリーンに並べて映し比較する。 等高線や地図記号を理解させる。 GISにより、新旧の地形図の土地利用の変化を比較する。 GISで土地利用図を作成する。 地形図プリントに、色鉛筆で着色しながら土地利用図を作成する。 地形図で学習した内容を開校当時の写真等で確認する。	平成16年の地形図で学校周辺の土地利用を確認させ、昭和31年の地形図と比較させる。 現在使われていない地図記号について説明する。 GISで土地利用を着色したり、新旧の地形図を重ねたりしながら、土地利用の変化を確認させる。 GISの操作を体験させる。 (時間の関係で5時間で実施する。) 開校当時の写真を多く使ったパワーポイントを使い、地形図で学習した内容を確認させるとともに、市立千葉高校の開校時の歴史を学習させる。
まとめ	5分	本時のまとめ	新旧の地形図を使い、読図の能力を高めるとともに、土地利用の変化を理解する。	GISと、生徒が本時で作成した土地利用図をみながら本時の学習内容について確認させる。



授業で使用した
創立時の校舎写真

(イ) 学校周辺の地域調査 「学校から金蔵院までの土地利用の変化を調べよう。」

(ア) の内容を発展させ、実際に学校周辺の地域調査を実施した。具体的には、新旧地形図とともにみられる金蔵院に注目し、学校から金蔵院までの土地利用の変化を調査した。その際に、2万5千分の1の地形図とともに、学校周辺の住宅地図(1500分の1・ゼンリン・千葉市稲毛区・平成18年度版)も携帯させた。これは、より詳しい地図を持つことで、生徒の読図能力を助け、生徒がわかりやすく地域調査ができるよう配慮したためである。

また、地域調査の一環として、学校周辺の地域の歴史にも触れ、金蔵院・園生神社についても調査させた。

最後に、地理的な考察力を培うねらいで、地域調査したコース中で、どこか1カ所を選び、その場所の50年前を想像し、風景画を作成させた。



地域調査の様子

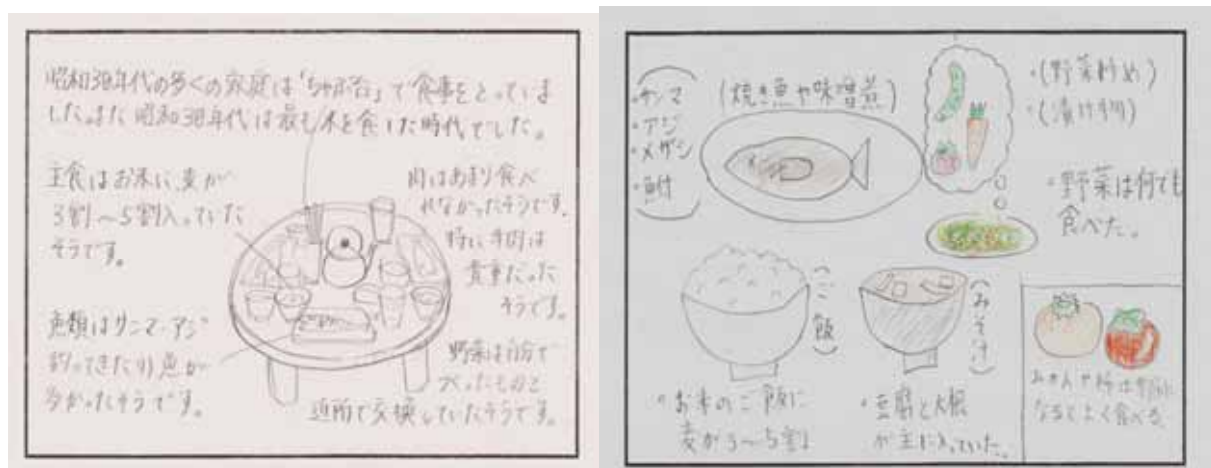
作品例 現在と50年前の金蔵院付近風景

生徒のレポート ～地域調査でわかった歴史～ (抜粋)

- ・金蔵院付近の台地下には、園生村の旧集落があった。
- ・金蔵院裏山の園生城跡には、妙見神社(園生神社)がある。
- ・金蔵院北西の西街道塚の出土品から、この付近に中世における支配者層の墓があったと考えられ、千葉氏関係者の墓である可能性もある。

(ウ) 昭和30年代の食生活を考える。

土地利用だけでなく、そこから発展させ、昭和30年代の人々の生活、食生活を考えさせる。具体的には、昭和30年代の日常的な食事メニューを、家族などから聞き取り調査もふくめ、調べさせた。調べた内容はイラスト等を使い、ワークシートにまとめさせた。



作品例 昭和30年代の食事

(2) 分析

(ア) 新旧地形図の比較

生徒の感想をみると、G I S や写真の利用は、地形図が苦手な生徒にも興味深く、地理的な作業や体験ができたと思う。また、地理的技能を身に付けることができるようにすることについても、効果がみられた。50 年前の地形図や写真からは、学校周辺の土地利用の変化を改めて知った生徒も多く、身近な地域の歴史を考えさせることについても、効果がみられた。

今後は、時間的・設備的制約があるが、もっと生徒が主体となってG I S を利用する作業学習・体験学習ができる授業展開を目指していきたい。

(イ) 地域調査について

生徒の感想をみると地域調査で、大部分の生徒が何らかの発見をしていること、またとても楽しく地域調査を実施したことがわかり、地域調査を実施した学習意義・効果がみられた。特に、「学校の近くに寺や神社があり、歴史的なこともわかり、面白かった。畑・竹林・荒地など、普段は意識しない土地利用を調べ興味深かった。50 年前を知る手がかりを探しながら地域調査できたことが楽しかった。」などの感想は、学習のねらいとも合致している。

(ウ) 昭和 3 0 年代の食生活を考える

生徒のレポートでは、現在との違いとして、以下の 3 点が多くの生徒から、あげられていた。

食事の内容が、野菜、魚が中心で肉がほとんどなかったこと。「ちゃぶ台」を囲んで畳に座り家族全員で食べていたこと。食料自給率が高かったこと。このレポートで、昭和 3 0 年代と現在を比べ、土地利用の変化だけでなく、食べ物の変化について調べたことで、食べ物について興味・問題意識を持たせることができた。これを、実践 2 の食べ物調べ学習につなげていきたい。

(エ) 生徒の感想より

新旧地形図の比較の感想

- ・新旧の地形図の土地利用が G I S を使って色分けすると、よくわかった。
- ・昭和 31 年の土地利用図を、現在の地形図に重ねると変化がよくわかり、歴史を感じた。
- ・学校の周りが水田ばかりだったのが、地形図と写真でよくわかった。

地域調査の感想

- ・学校の近くに寺や神社があるとは知らなかった。しかも地域の歴史的なこともわかり、面白かった。
- ・学校の周りに、意外に畑や竹林が多かった。
- ・地図記号の荒地を実感できた。
- ・50 年前の水田・畑の多さが、歩いてみて実感できた。
- ・50 年前からあったと思われる道をみつけて、うれしかった。
- ・実際に歩くと、地形図だけではわからない発見があった。

「昭和 3 0 年代の食生活を考える」の感想

- ・30 年代の食事は野菜・魚が中心でとても体に良さそうだった。
- ・家族全員が「ちゃぶ台」を囲んで食事をするのに驚いた。うちに「ちゃぶ台」はないです。
- ・30 年代と比べ現在の食糧自給率の低さに危機感を覚える。
- ・聞き取り調査で祖母から昔の話がいろいろ聞けて楽しかった。

実践2 身近な食べ物を調べて、自分なりの主題地図（オリジナルマップ）を作ろう。

（１）学習活動の概要

（ア）身近な食べ物について調べてみよう。

生徒に身近な食べ物，例えばファーストフード，ファミリーレストランなどのメニューの原材料は，どこの国，地域のものなのかを調べさせる。この際，生徒が自由に自分の好きな食べ物を選択できるようにし，意欲的に調べ学習に取り組めるよう配慮した。

（イ）食材の生産上位国を調べてみよう。

（調べ学習の様子） 各農作物の生産上位国，日本との貿易について調べさせる。また，それ以外にも調べてわかったことは積極的にワークシートに記入させ，オリジナルマップ（自分なりの主題地図）作成に反映させるよう指示する。

（ウ）オリジナルマップを作ってみよう。

調べ学習まとめとして，地図に調べた内容を，地理情報として工夫して書き込ませるオリジナルマップということで，生徒が自由に工夫して作業できるよう配慮した。地図を活用し，作業



作品例・オリジナルマップ

することにより，世界各国の位置を把握させることもねらいとする。また，日本の農業・食料自給率・貿易などについても，地理的に総合的に考えさせることにより，日常生活でも食べ物について問題意識を持たせるようにする。

（２）分析

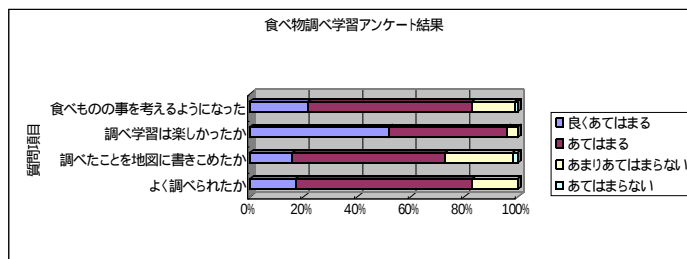
（ア）調べ学習ではじめて知ったこと

調べ学習によりはじめて知ったことがあると答えた生徒が91%いた。その内容は，ただ単純に外国産の食材を使っているというレベルでとどまらず，一步踏み込んだ内容が多く見られた。

- ・1つの食べ物が，多くの国から輸入されている。
- ・予想外の国から輸入し，予想外の国で生産している。
- ・野菜は思ったより日本産が多い。
- ・中国産の食材が多い。など

（イ）学習意欲・問題意識

右のアンケート結果から，調べ学習



を通じ、学習意欲を高めることや、問題意識を持たせることについては、効果があることがわかる。

- ・楽しく意欲的に取り組めた（96％）
- ・食べ物に以前より問題意識を持つようになった（83％）

（ウ）国の位置の把握について

オリジナルマップ作成時に、位置を正確に知らない国があるという質問に、59％の生徒があると答えている。オリジナルマップ作成によって、世界の国の位置を把握させる学習効果もあったと思われる。特にヨーロッパ、東南アジアに関しては、国の位置を正確に把握していない生徒が多かった。このことを授業実践3につなげ、学習効果を上げていきたい。

位置を正確に知らないという答えの多かった国（5クラス：200名中の人数）

ベトナム 9名 トルコ 8名 タイ 7名 ドイツ 5名 デンマーク 4名 キューバ 4名 など

（エ）生徒の感想より

生徒の感想にも調べ学習のねらいと合致したものが多くみられた。

- ・自分で調べて自分なりの地図を作るのはとても充実感があり、楽しかった。さらに、その食べものと地域はどんな関係があるのかなどのように発展させて調べてみたい。
- ・食べ物調べをすることは、同時にその国の文化や歴史を知ることになるのだと分かった。
- ・EU諸国への興味がわいたので、また調べたい。
- ・調べ学習をしてから、夕食の買い物を手伝うときに、食材の生産国を気にするようになった。このように、学校で学んだことを生活に生かしてよかったと思った。
- ・教えてもらうよりも、自分で調べる方が充実感があり、自然と覚えられるのでよかった。
- ・食品の安全性が問題になっている現在、このような学習が役に立つと思った。

実践3 食べ物の調べ学習を発展させて、グループ学習へ

～ASEAN，EU諸国を調べてみよう～

（1）学習活動の概要

実践2のの調べ学習の発展として、グループ学習を行う。教科書の4章「多様な諸地域」で扱っているASEAN，EU諸国のなかから、グループ毎に1国を選択し、必須の項目と各グループ毎に食べ物についてテーマを決めて調べ学習を行う。必須の項目には、人口・面積・首都・言語・通貨単位・気候などの項目をいれた。このグループ学習により、地理的資料の収集する能力、資料を分析し地理的考察をする能力を身につけることをねらいとする。調べ学習は、コンピューター教室を利用した。

グループ全員が学習活動に関われるよう、役割分担をしっかりと行わせることを重視した。また、授業中は机間巡視によりグループの作業状態をしっかりと把握するようにした。

（2）発表・評価



（模造紙を使った発表）



（プレゼンテーションソフトを使った発表）

発表の際に、調べた地理情報をうまくまとめ、それを興味深い、説得力のある情報として提示する「プレゼンテーション能力」の育成に取り組む。

また、生徒には評価表を用い、互いの発表を相互評価させた。評価表には発表グループへのメッセージ欄を設けた。これにより、他の班の発表をより熱心に、地理的興味や問題意識を持ち、聞く姿勢を育成することができる。かつ地理的な認識や地理的な見方、考え方、情報を主体的に活用できる能力の育成に取り組むことができる。

(3) 分析

(ア) 自己評価カード・アンケートより

各グループとも資料・データの収集など熱心に取り組み、発表に対する調査はよくできていた。また、発表についても各グループがそれぞれに工夫をしており、「プレゼンテーション能力」の育成にも効果があったように思う。全体の傾向として、パワーポイントで発表したグループは、写真やアニメーションをうまく工夫して使用し、とても視覚的に優れた発表が多かった。しかしその一方で、地理情報を地図に書き込むことや統計資料をグラフ化するなどが十分にできていないグループがみられた。むしろ、この点においては、模造紙を使った発表グループの方が工夫がみられ、十分な成果をあげていた。今後の課題として、今回みられたパワーポイント・模造紙を使った発表のそれぞれの長所を認識させ、次に活かせる指導をしていきたい。

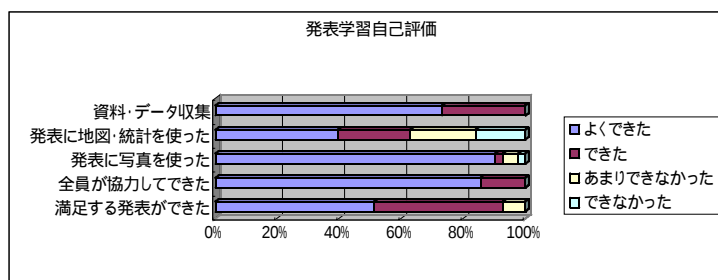
役割分担が各グループでうまくなされたせいか、自己評価カードでは 全員で協力してできたの質問に「良くてきた 85% できた 15%」と、全員が肯定的な答えをしているおり、グループ全員が協力して発表学習を行うことについては、うまくいったと思う。

また、アンケートでは約93%の生徒が満足する発表ができたと答え、さらに、もっと深く調べてみたいと学習意欲が高まった生徒

や、日本と比較することにより地理的な考察をした生徒もみられた。こうした点は発表学習の成果と考えられる。

(イ) 生徒の感想より

- ・今回の発表学習では初めて知ったことも多く、また発表も見ていてとても楽しくためになった。
- ・スライド作成、原稿作成など役割分担ができていたので、順調に進んでよかった。
- ・パワーポイントは、写真やアニメーションがきれいで面白く、模造紙は1度に全体がみることができ、各々の長所がよくわかった。
- ・放課後にも何度か準備を進めていたので、班員全員が納得できるものとなった。
- ・ゆとりがあるのに学力が世界でもトップクラスのフィンランドと、日本の教育はどう違うのかを、もっと詳しく調べてみたい。
- ・ベルギーは日本とかけ離れているようで、実は似ている事を伝えたかった。
- ・どの国にも独自の文化があることを理解し、自分で興味を持ち調べていくことが、国際理解にとって大切な事だと思った。



相互評価を行ったことで、他のグループの発表を熱心に、地理的興味や問題意識を持ちながら、聞くことができたのではないかなと思う。また他の発表から自分のグループの長所や短所を確認することができたと思う。

う生徒間評価の有効性・大切さを感じた。

3 班 オーストリア

テーマ オーストリアの色々な料理

A よくできた B できた C あまりできていない D できていない

評価項目	評価基準	評価
研究内容	よく研究されていたか	A・B・C・D
資料の提示	資料がうまく使われていたか	A・B・C・D
	時間の使い方がよかつたか	A・B・C・D
研究発表	声は全員に聞こえていたか	A・B・C・D
	説明はわかりやすかつたか	A・B・C・D
	発表方法に工夫がされていたか	A・B・C・D

総合評価 A・B・C・D

感想・コメントなど

食べものや衣服などの写真(絵)が面白
見やすかつた。料理は材料や量も揃
べてお洒落でいい思ふ。

2 班 フランス

テーマ 交通・建造物・映画

評価項目	評価基準	評価
研究内容	よく研究されていたか	A・B・C・D
資料の提示	資料がうまく使われていたか	A・B・C・D
	時間の使い方がよかつたか	A・B・C・D
研究発表	声は全員に聞こえていたか	A・B・C・D
	説明はわかりやすかつたか	A・B・C・D
	発表方法に工夫がされていたか	A・B・C・D

総合評価 A・B・C・D

感想・コメントなど

パロ・ボワットとオマージュ No.1!
シムールとオマージュ No.2! 面白い
内容の発表にふりやすかつた。

生徒の相互評価カードの例（抜粋）

A photograph showing a group of students in a classroom. They are seated at desks, some looking towards the camera and others looking down at their work. The room has large windows in the background, and there are bookshelves filled with books. The students are wearing dark uniforms.

(図書館での調べ直し学習) のかなど再考していた。インターネットによる調べ学習の長所・短所を考させることができ調べ直し学習は、大いに意義があったと思う。

(オ)生徒の感想より

- ・インターネットで調べた数値と世界国勢図会で調べた人口が違いすごく驚いた。インターネットでは、何年の記録なのか確認が必要だと思った。
- ・人口の単位は世界国勢図会のように千人単位の方が見やすく、他の国と比べやすい。
- ・本で苦労して調べると印象に残るし、調べたいことが見つかるとうれしい。

(1) 学習活動の概要

地理学習のまとめとして、1年間学習してきた内容をふまえ、特に実践2・実践3で学習した内容を生かし、日本の食料問題についてグループで協議する。この学習では、食料問題から国際社会の中の日本をグローバルな視点から考察させることをねらいとする。また、生徒が物事を地理的に考察し、自分の考えを発表する力や協議することで内容をより高めていく力を伸ばすこともねらいとしたい。

(ア) グループ協議

協議内容は 食料輸入の問題点 日本の将来の食糧事情を考えた時に、日本のとるべき政策は 高校生でもできる食料問題への対策（グループ学習で調べた国を参考にしながら）の3



点とした。そして最終的に、「高校生でもできる食料問題への対策」の標語（キャッチフレーズ）をクラスで1つ決めるようにした。グループは、実践3の発表学習をしたグループと同じとし

て、実践3で調べた国と比較検討もできるよう配慮した。また、食料問題に関する資料として、実践2で自分で調べたレポートやオリジナル・マップを使用し、グループ協議に生かせるよう配慮した。協議方法として、バズセッションを取り入れた。

バズセッションとは

5, 6人をめやすとした少人数のグループに分かれて、リーダー進行のもとにテーマについて討論し、グループごとに見解をまとめて報告させる討議の技法。できるだけ多くの人の発言や反応を引き出すことができるようにすることをねらいとしている。他の討議法と比べ、比較的手軽で、授業でのグループ協議に取り入れるのにも適している。

(イ) 発表

グループ協議 ~ の内容について、グループごとに発表し、意見交換する。最後に、高校生でもできる食料問題への対策について、クラスの意見を1つの標語としてまとめる。

(ウ) グループ協議の結果

食料輸入の問題点は、各クラスとも主に次のような内容がでてきた。

- ・食の安全性に関する問題 ・輸送コストなど経済的な問題 ・貿易摩擦など対外的な問題
- ・環境に関する問題

日本の取るべき政策は、各クラスとも共通して次のような意見が出された。

- ・農業の保護（国産品の奨励、政府からの補助金、外国の農作物への検閲強化、農業労働者の斡旋、農業労働者への賃金補償 など）

高校生でもできる食料問題への対策として、次のような標語をクラスの意見としてまとめた。

- ・食品についての問題意識をもとう ~食料について危機感の多い時代~
- ・家庭菜園を作ろう ~自給自足への意識~
- ・食べ物についてよく知ろう ~商品表示は必ずよく見る~
- ・国産国消（国内産のものを国内で消費する） ~安さだけを基準にしない~

(2) 分析

(ア) グループ協議を実践して

学習意欲、学習活動について、生徒のアンケートをみると次のような結果となった。

グループ協議は楽しかった（97%）、グループ内での話し合いはうまくできた（80%）

当初、自分が予想していたよりもグループ協議はとても活気があり、多くの生徒は積極的に意見を出し活動していた。また、クラスの標語を作る際には、独創的な意見がでたり意見交換・意見の補足や合体など発展的な活動もみられた。更に、自分の意見が支持された時の喜びや、意見を交換しクラスの標語をつくる楽しさを知ったという感想も多く見られた。これは、自分の考えを発表する力や協議することで内容をより高めていく力を伸ばすことについても、効果があり、

新学習指導要領の言語活動の充実につながっていくと考えられる。

調べ学習で調べたことや、グループ学習で調べた外国のこと、授業で学習したことなどがグループ協議に反映されており、1年間の地理学習のまとめとしての学習効果もみられた。課題としては、教員主導の要素がみられたので、もっと生徒主体の授業展開を考えていきたい。

(イ) 生徒の感想より

- ・最初はあまり意見がでなかったが、話し合っていくうちに意見がどんどん出た。
- ・他のグループの意見を聞くことで新しい考えをもてたり、違う見方ができて、とても勉強になった。
- ・自分の意見が、他の人に共感してもらえてうれしかった、自分の意見を主張する楽しさがわかった。
- ・日本の食料問題について見つめ直すきっかけとなった。
- ・ドイツの進んだりサイクルや食文化など、海外に学ぶべきことも多くあると思う。
- ・食料問題について、自分たちができることはたくさんあることがわかった。

6 おわりに

今回の授業実践の生徒の反応はたいへんよく、授業中の表情も生き生きとしていた。これは「受け身」の授業から「自分で作業する・体験する」授業へと変わったことで、生徒のやる気や学習意欲が高まったからだと思われる。また、1年間の最後の授業の感想では、地理は暗記科目であると答えた生徒の多くが「地理は単なる暗記科目ではない」と意識が変わっていた。また、「自分で作業する・体験する」授業を通じて地理が好きになったという感想もみられた。

実践1では、初めてGISを使った授業に挑戦してみたが、地形図の学習の導入として効果的であった。地形図で学習した学校周辺の土地利用を、実際に地域調査で体験し、生徒は身近な地域から多くの発見をすることができた。また、50年前の地形図と比較することで、地域の歴史を学習する効果もあった。今後さらに、GISを使ってハザードマップを作成したり、生活圏の防災について地域調査をするなどして、実践1を、新学習指導要領に示されている「自然環境と防災」の学習内容にも発展させていきたい。実践2では、食べ物という日常的な題材を調べ、調べたことを自由に地図を作るという生徒主体の作業学習を行った。この実践では苦手だった地理に興味を持ち地理の面白さを知ったという生徒も多くみられ、地理Aにおいて生徒の日常生活に結びついた題材を、いかにうまく授業に取り入れていくかの重要性を感じた。実践4のグループ協議では、最初乗り気でなかったが、自分の意見を人に伝えることや、人の意見を聞き考えることの楽しさを知ったという生徒が多くみられた。これは、実践3の発表学習とともに、地理に言語活動を取り入れていく上で、大変効果がある。今回の各授業実践は、まだまだ課題も多く、改良していかなければならないことが多いが、今回のこれらの実践を生かし、新学習指導要領の地理の授業へと応用していきたい。

今回の実践を通じ、生徒の授業への取り組みや、作品、発表をみて、「教師が教える」のではなく「生徒の能力を引き出す授業」の重要性を痛感した。また、自分の今までの授業を見直すことができ、授業に対する意識が大きく変わった。今後更に、教材や授業方法等を学び、工夫し、挑戦していこうという意欲が喚起され、たいへん良い勉強になったと思う。

最後に、2年間ご指導いただいた指導主事の先生方や教科指導員の先生方、またこの実践に協力いただいた本校の先生方、生徒諸君にこの場をお借りして感謝とお礼を申し上げます。

